＜今朝の聖書から＞

【ヨハネ】バプテスマのヨハネについては既にふれましたので、今朝は触れません。このヨハネは、疲れ果て進むべき道が見えなくなってしまっているイスラエルの人々に語ります。３節以下に“そこで、ヨハネはヨルダン川沿いの地方一帯に行って、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた”とあります。徴税人や兵士に対する教えや、“悔改めのバプテスマ”と呼ばれている説明から、その内容を推し測ることができます。そこでは“水のバプテスマ”を、ユダヤ教の悔改めとして扱っています。はるかにそれ以上に大切なのは、主イエスの“聖霊と火によるバプテスマ’を、彼は知っていたということです。“そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる（3：16）”とあります。ヨハネは、この方は、悔改めによるのではなく、恵みと救いによって民を導くことを知っていました。おおざっぱですが、この人がヨハネです。

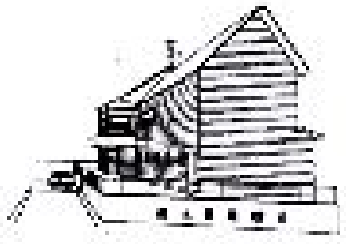
【受洗のめぐみ】私たちが、悔改めと恵みの生涯に向け、洗礼を受けた時、実は天には、大きな喜びがあるのです。洗礼の恵は、神様によって知られるのだということを忘れないようにしましょう。“わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる（マタイ１６：１９）”とあります。ここに出て来る“鍵”についても、既に触れましたので、思い出して下さい。教会が一番大切にしているものです。ところがこの信仰者に与えられた恵を、まるで何事もなかったかのように、無駄にしてしまうことを人はよくします。“神の恵みをいたずらに受けてはならない（Ⅱコリント６：１）”という御言葉から、神の民の恵についてみてみましょう。

【すでにある恵】“いたずらに受ける”ですが、ちょっと言い方を変えてみましょう。そこに恵が注がれていても、すなわち受けているのに、それを代無しにしている、あるいは気付きすらしない、とパウロの言葉を解釈しても間違いではありません。すなわち、元の世界に帰るのです。

【きよめ】きよめ、あるいは聖化の道に私たちは進み行くのです。おなじⅡコリントで“今や、恵みの時、今こそ、救いの日（６：２）”と御言葉は語ります。とあるのに“今はまだ恵ではない”と思われてしまうのです。私たちの都合で、そこにある恵が見えていないのです。このことに注意しパウロは“栄誉を受けるときも、辱めを受けるときも、悪評を浴びるときも、好評を博するときにもそうしているのです（６：８）”と語ります。ところが私たちは“そうだ”と思いつつも、自ら評価を気にし、それ以上に、自分も人々を評価していることに気づくでしょう。別の価値観が必要なのです。士農工商に代えて、能力のある者、財力のある者と思っても何の解決にもなりません。人の評価などないことにしようと思っても、恵には至らないのです。ここに信仰者にとっての“きよめへのスタート”があるのです。受洗の時に天の声が聞こえたことに、立ち返りましょう。

週　報

２０１１年　1月　9日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師　　村上　定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00

ホームページ　http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　E-Mail grace@big.jp
振替口座　00890-6-214042